

都道府県インフルエンザワクチン担当者会議

日時 平成23年9月26日(月)10:15~10:35

場所 中央合同庁舎5号館 講堂(低層棟2階)

インフルエンザを含む 感染症の動向について

国立感染症研究所 感染症情報センター

**2009/2010シーズンおよび
2010/11シーズン前の抗体保有状況**

2009年度/2010年度感染症流行予測調査事業 インフルエンザ感受性調査協力都道府県

- ・北海道
- ・山形県
- ・福島県
- ・茨城県
- ・栃木県
- ・群馬県
- ・千葉県
- ・東京都
- ・神奈川県
- ・新潟県
- ・富山県
- ・石川県
- ・福井県
- ・山梨県
- ・長野県
- ・静岡県
- ・愛知県
- ・三重県
- ・京都府
- ・山口県
- ・愛媛県
- ・高知県
- ・佐賀県
- ・宮崎県

上記、24都道府県ならびに都道府県衛生研究所

流行前の抗体保有率

2009/10 (感染症流行予測調査事業より) **2010/11**

図1 季節性インフルエンザ(A型)に対する年齢群別HI抗体保有状況
【2009/10シーズン前】 (2010年2月5日現在)

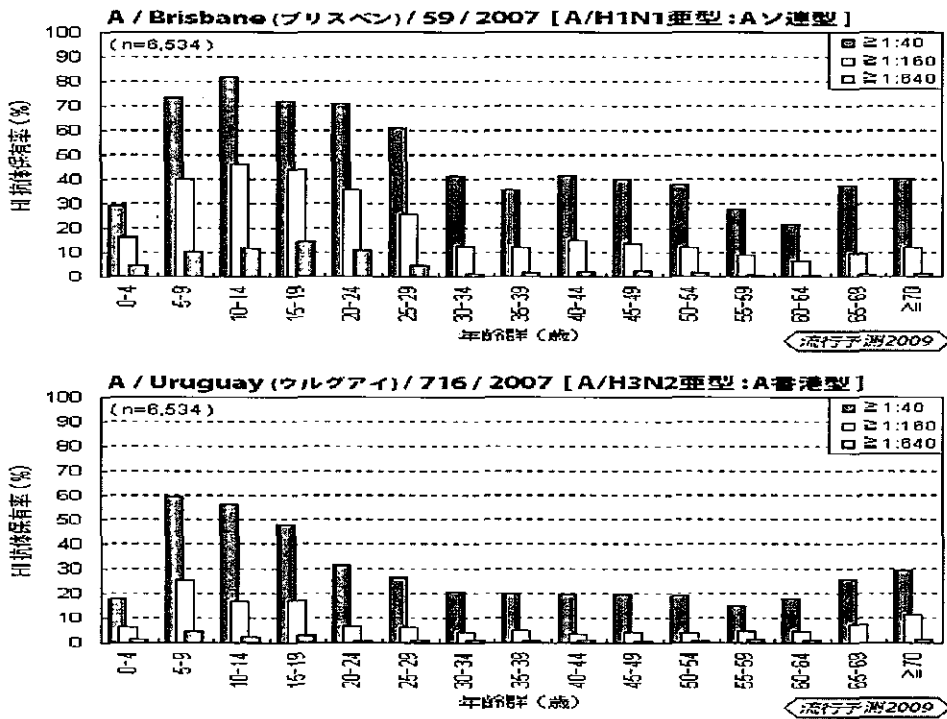
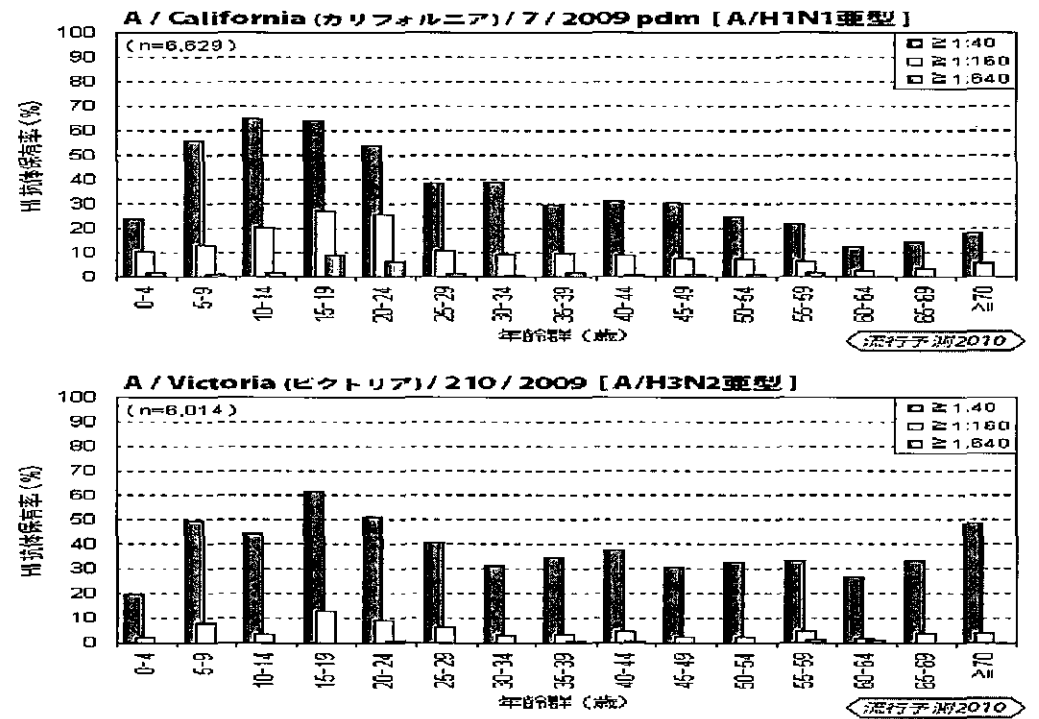


図1 インフルエンザA型に対する年齢群別HI抗体保有状況
【2010/11シーズン前】 (2010年12月16日現在)



2011年版は11月末頃HPに公開予定です。

是非ご覧下さい。 <http://idsc.nih.gov.jp/yosoku/index.html>

流行前の抗体保有率

2009/10 (感染症流行予測調査事業より) **2010/11**

図2 季節性インフルエンザ(B型)に対する年齢群別HI抗体保有状況
[2009/10シーズン前] (2010年2月5日現在)

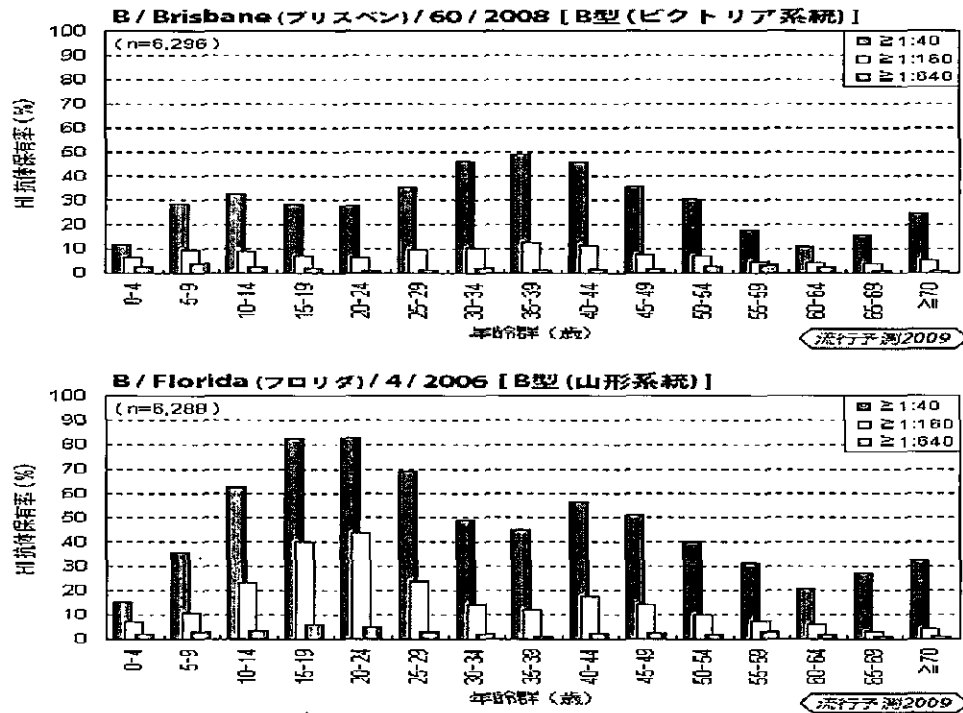
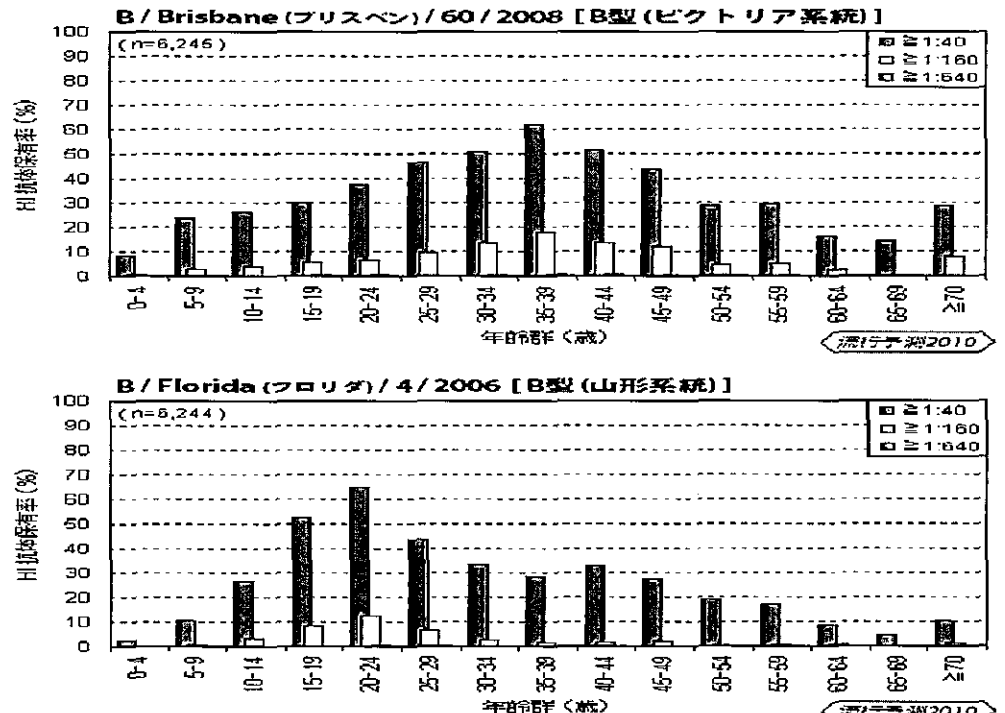


図2 インフルエンザB型に対する年齢群別HI抗体保有状況
[2010/11シーズン前] (2010年12月16日現在)



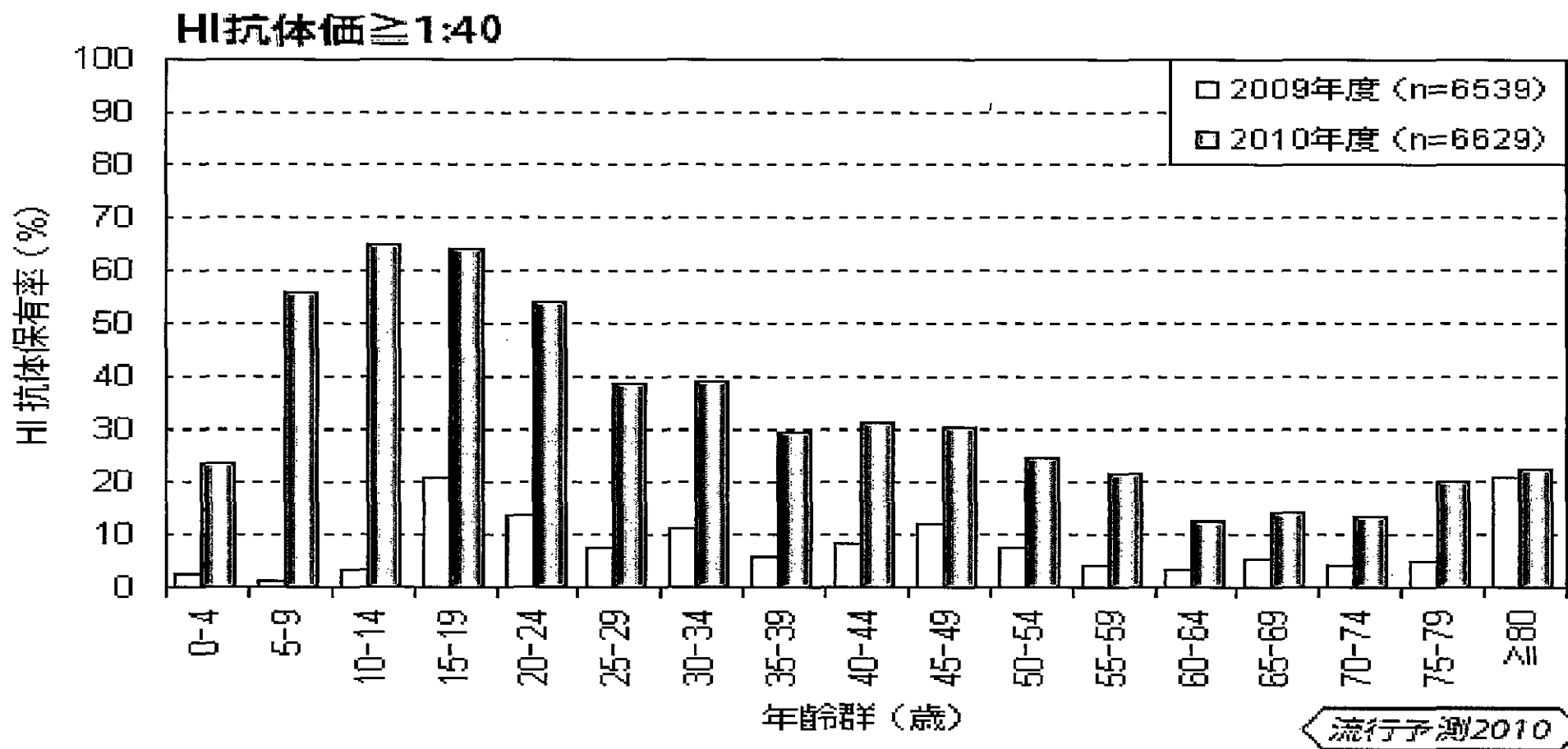
2011年版は11月末頃HPに公開予定です。

是非ご覧下さい。 <http://idsc.nih.gov.jp/yosoku/index.html>

図3 インフルエンザA型に対する年齢群別HI抗体保有状況

[A/California/7/2009 pdm における2009年度と2010年度の結果比較]

(2010年12月16日現在)



2009/10シーズンの流行の特徴

A(H1N1)2009発生早期:日本

発症日別報告数 (7月22日現在)

Number of cases by date of onset (Last updated: 11 : 00, 22 July,) 2009

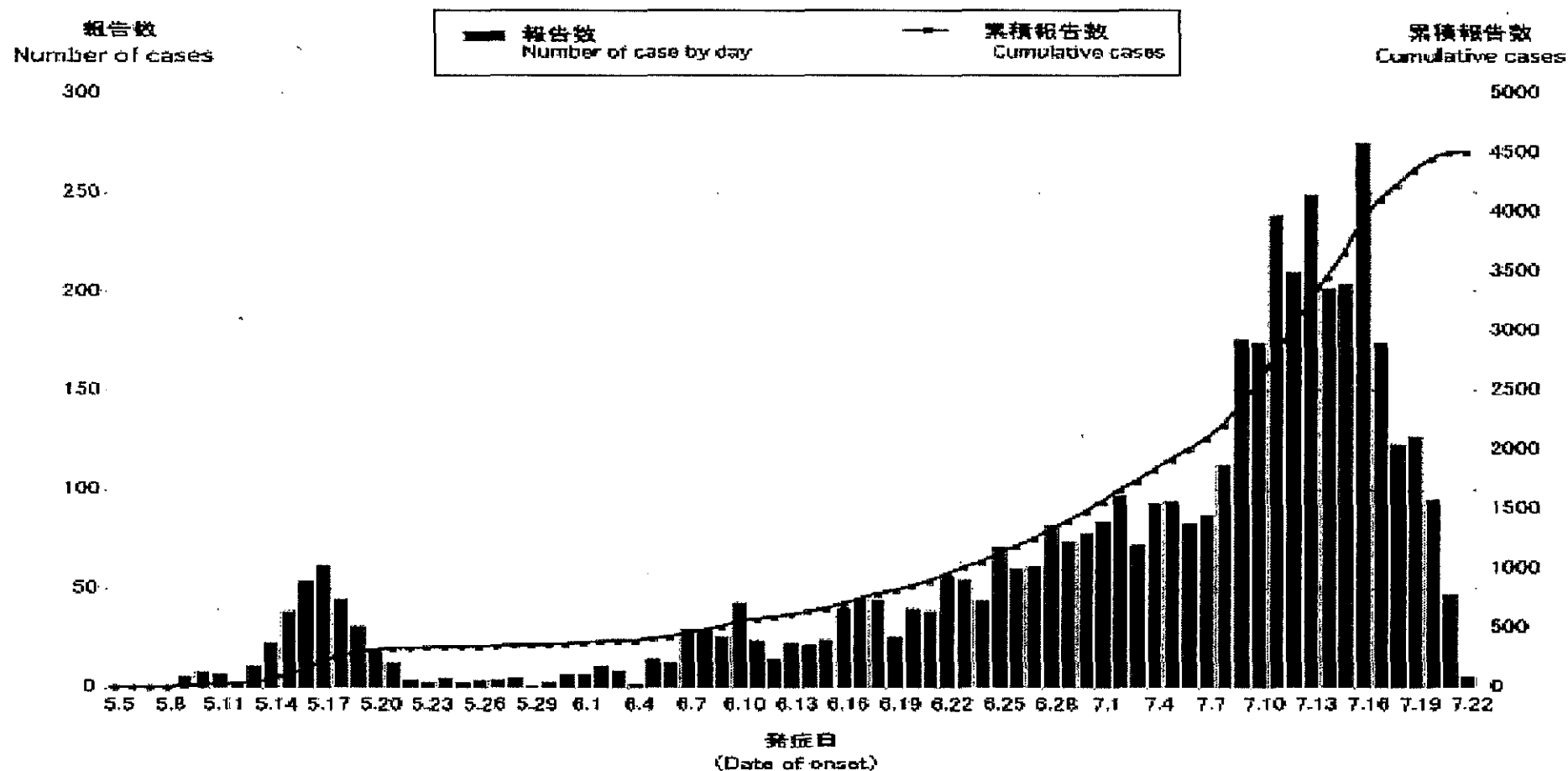
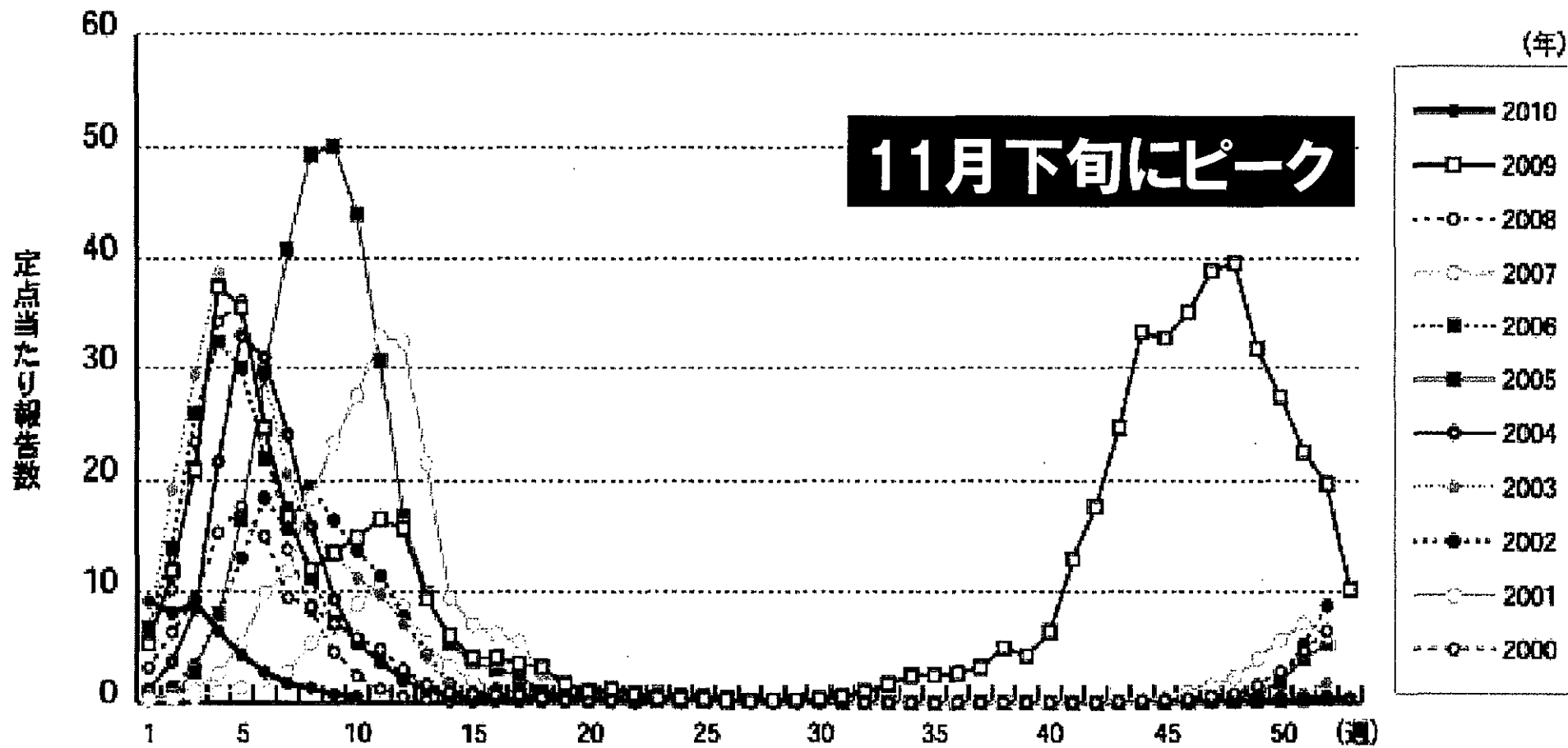


図1. インフルエンザの年別・週別発生状況(2000～2010年第10週)



感染症週報より

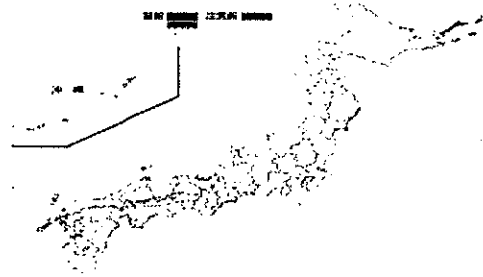
どのくらいの感染があったか

- ・ 全体の人口当たりの発症率(アタックレート;AR)は11%と推定
- ・ 発熱のない軽症例は全体の感染者の8~32%
- ・ 流行のピークを過ぎた後の血清学的なデータでは、全体の21%、10~19歳の45%が感染
- ・ 日本では受診者数推計を分子、総人口を分母とすれば、日本国民におけるARは15.6%
- ・ 日本の学校では40~50%の罹患との報告

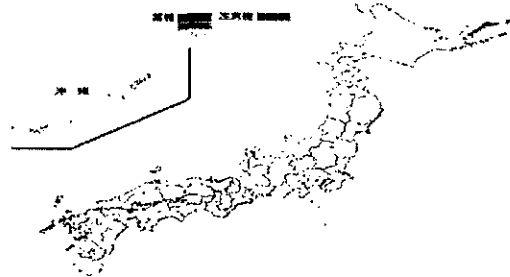
2010/11シーズンの流行の特徴

2010/11シーズン週別都道府県別インフルエンザ患者報告数

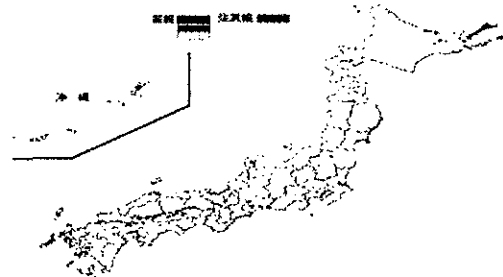
2010年9/6-9/12:第36週



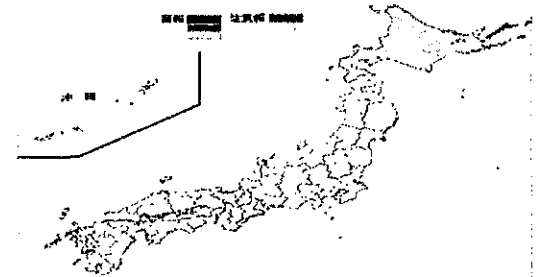
2010年10/4-10/10:第40週



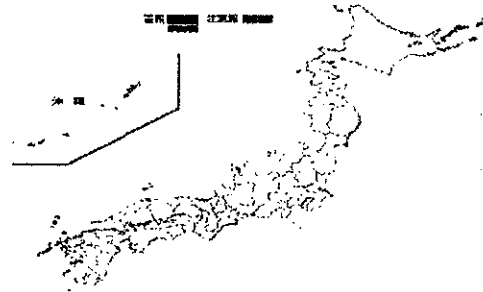
2010年11/1-11/7:第44週



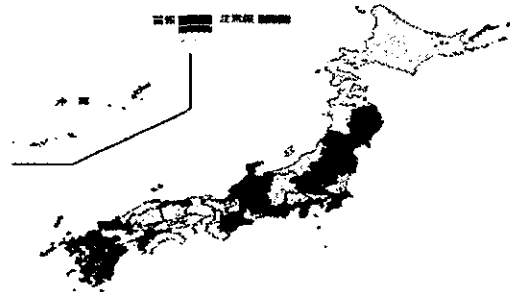
2010年11/29-12/5:第48週



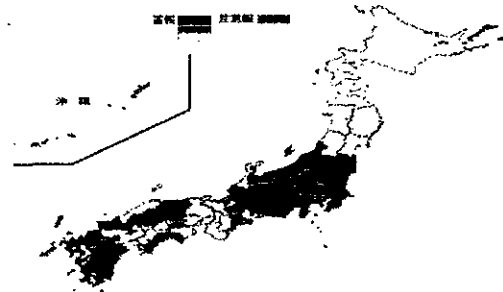
2010年12/27-1/2:第52週



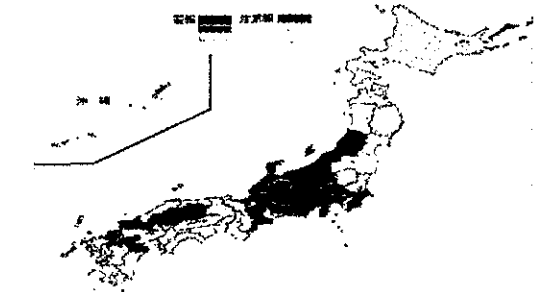
2011年1/17-1/23:第3週



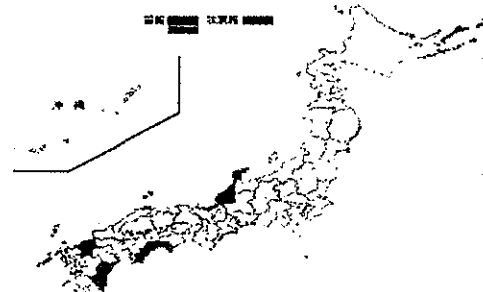
2011年2/14-2/20:第7週



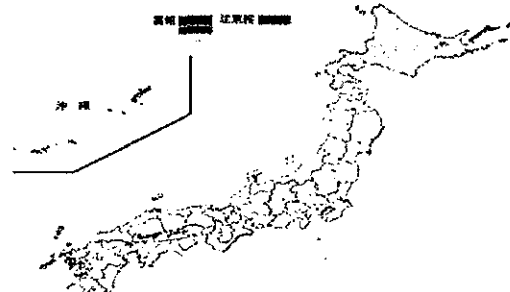
2011年3/14-3/20:第11週



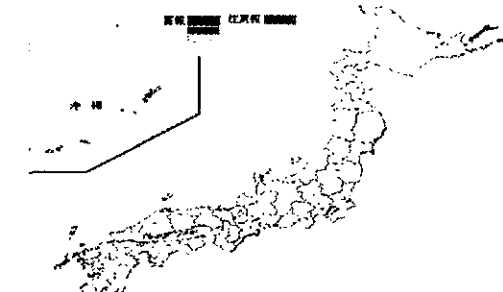
2011年4/11-4/17:第15週



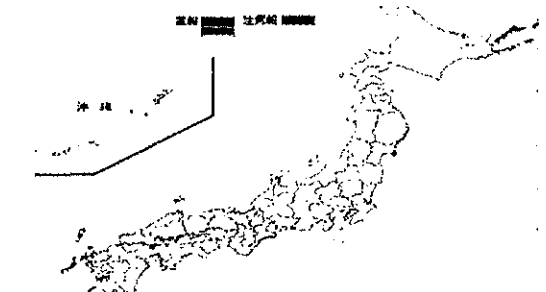
2011年5/9-5/15:第19週



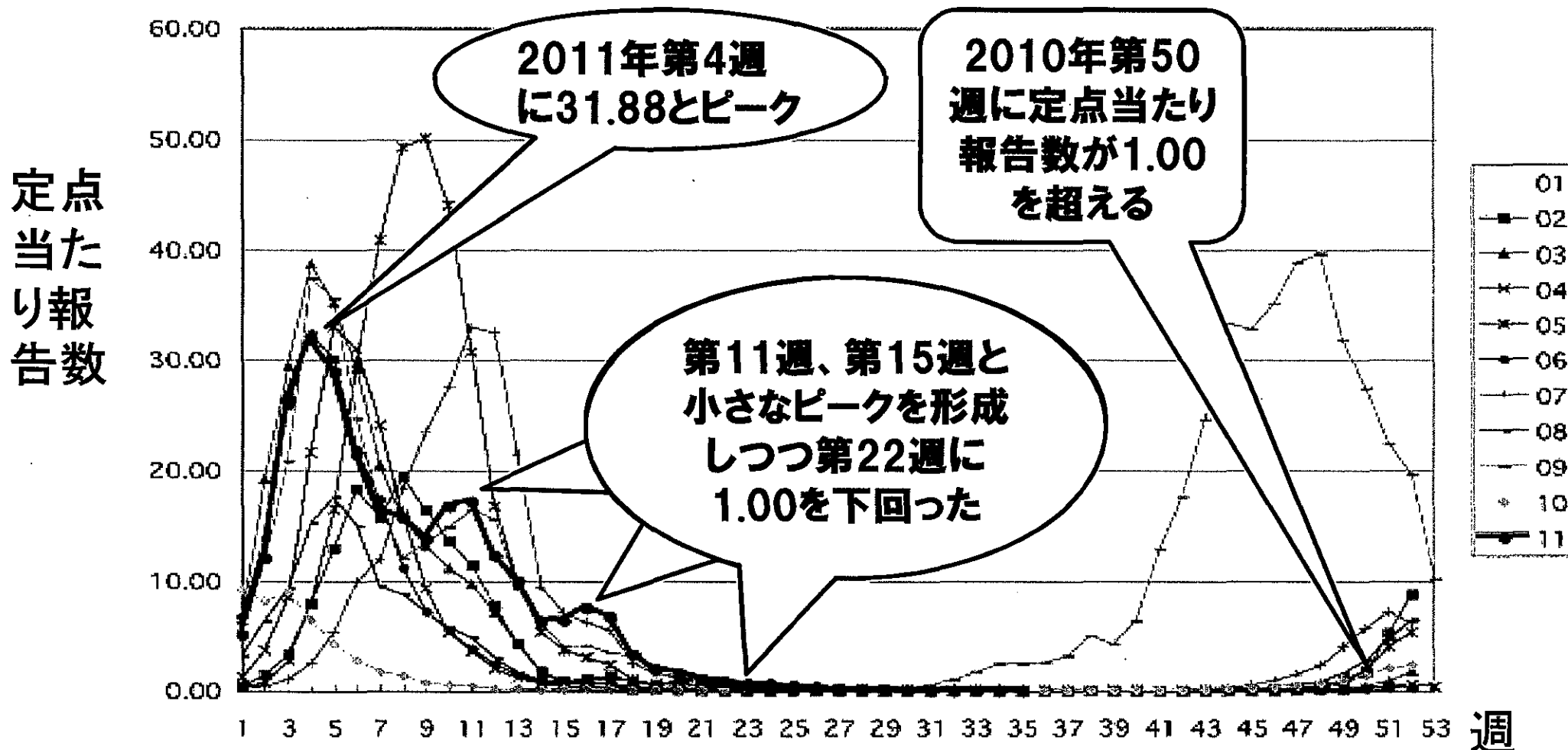
2011年6/6-6/12:第23週



2011年6/27-7/3:第26週



週別、年別定点あたりインフルエンザ患者報告数 (現在のインフルエンザ定点数:内科約2,000、小児科約3,000)

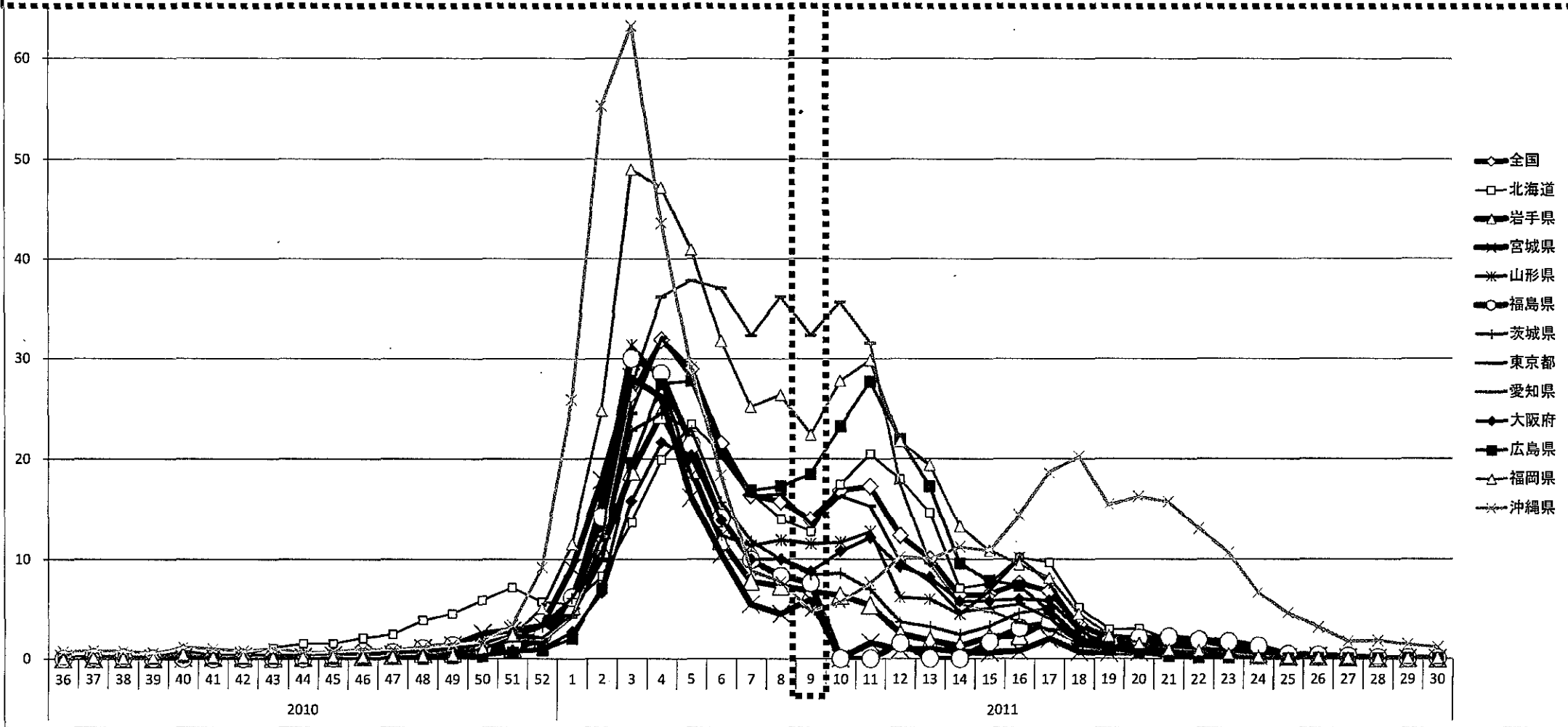


定点あたり報告数が1.00を超えている期間は24週間であった

インフルエンザの流行曲線

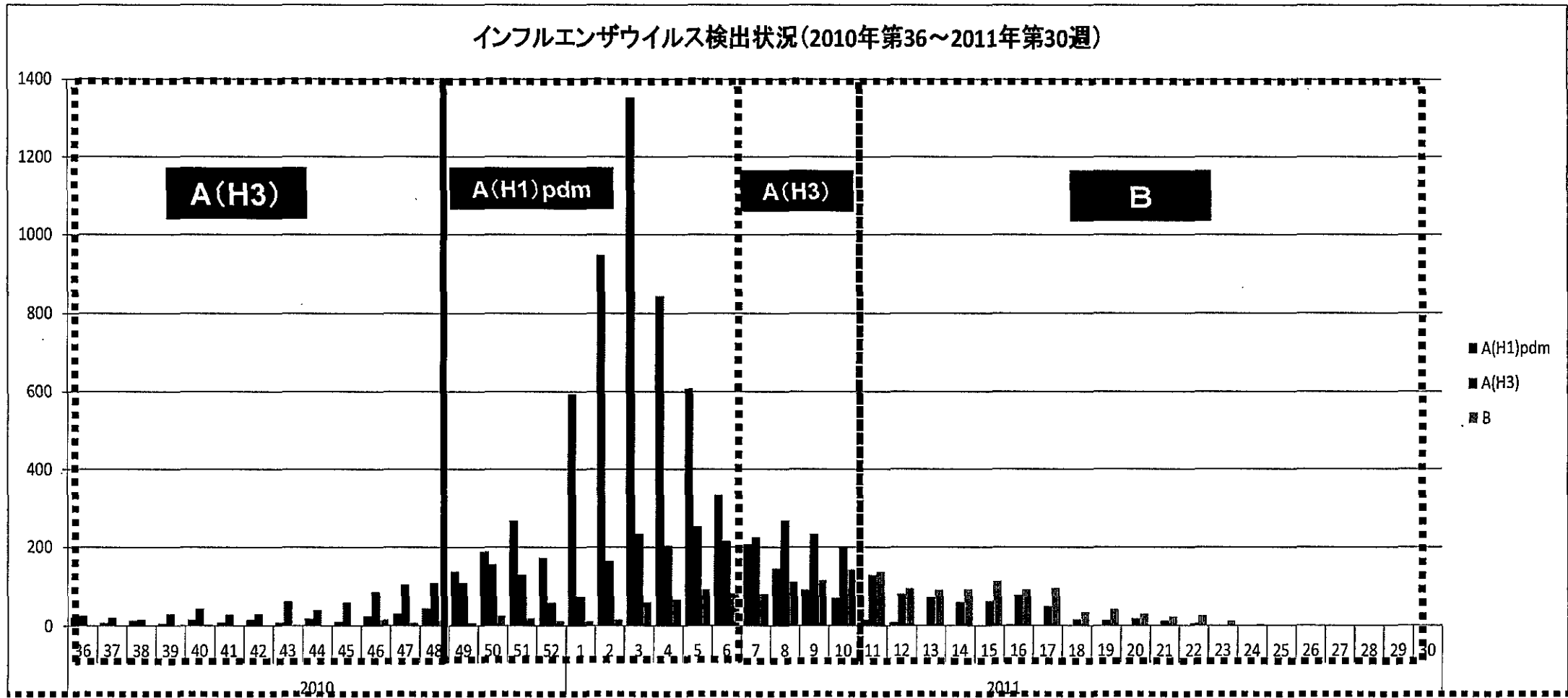
定点当たり報告数

☆東日本大震災が発生した第9週以降、被災地とその周辺地域では報告数が減少しているが、そのほかの地域では再び増加している



2010第36週～2011年第30週(7月25日～7月31日)現在まで

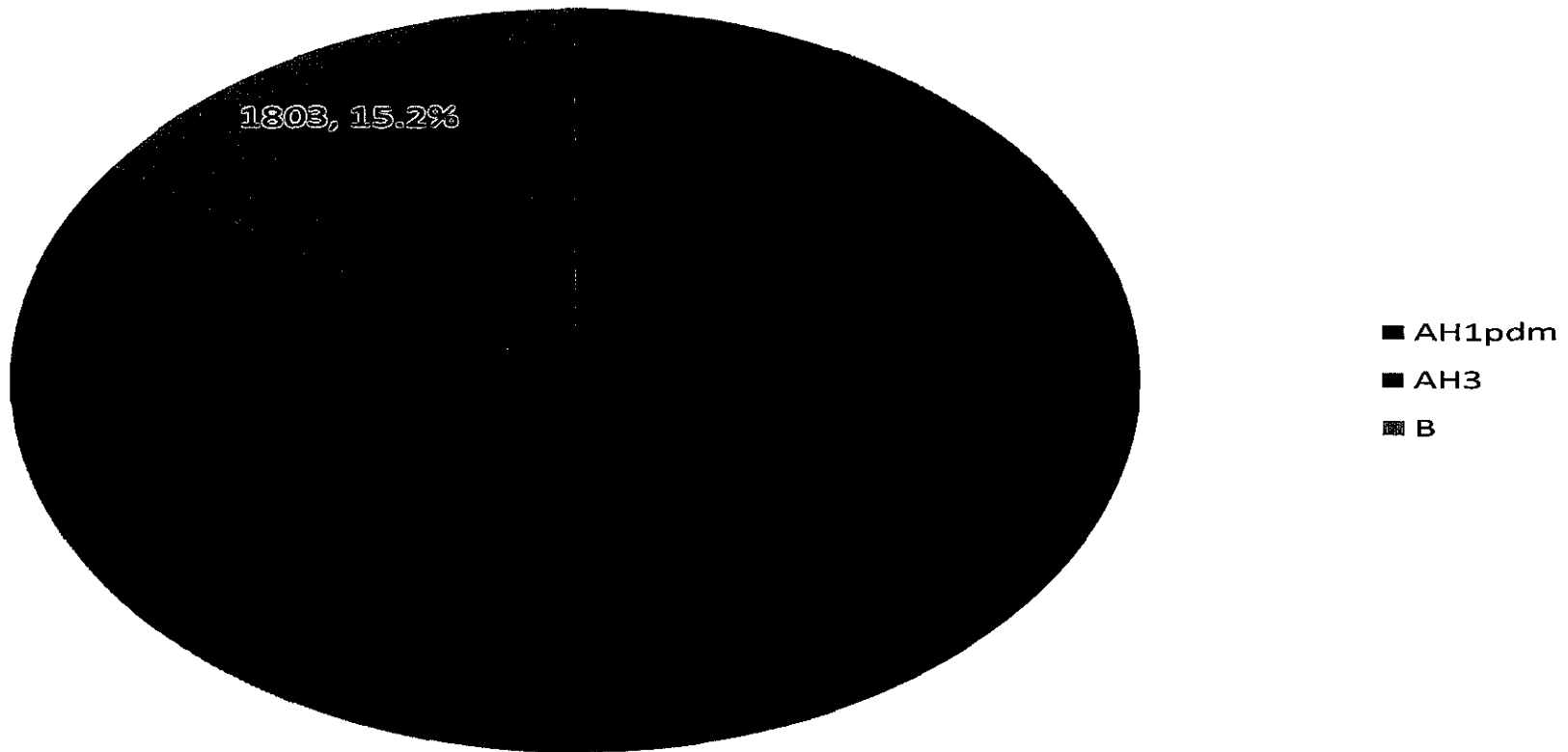
インフルエンザウイルス検出数の推移 (2010年第36週以降)



☆ 流行の最盛期はAH1pdmが最も多く検出されているが、その後の小さな流行のピークの時期にはAH3、B型がそれぞれ多く検出されている

インフルエンザウイルス検出状況

インフルエンザウイルス検出状況(2010年第36~2011年第30週)



総検出報告数=11,851

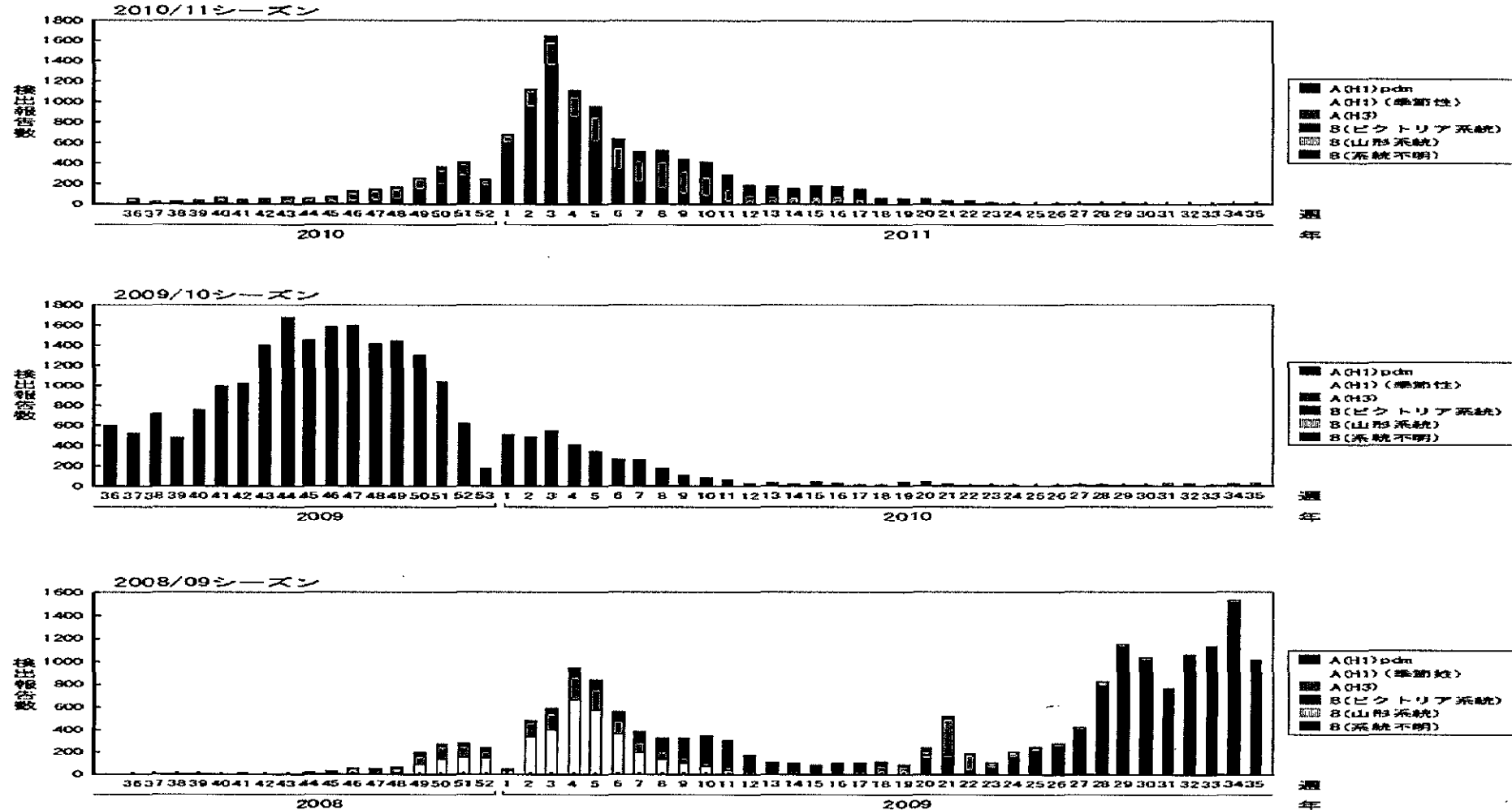
週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2006/07～2010/11シーズン
 (病原微生物検出情報：2011年9月2日 作成)

各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



Interim Agency Surveillance Report

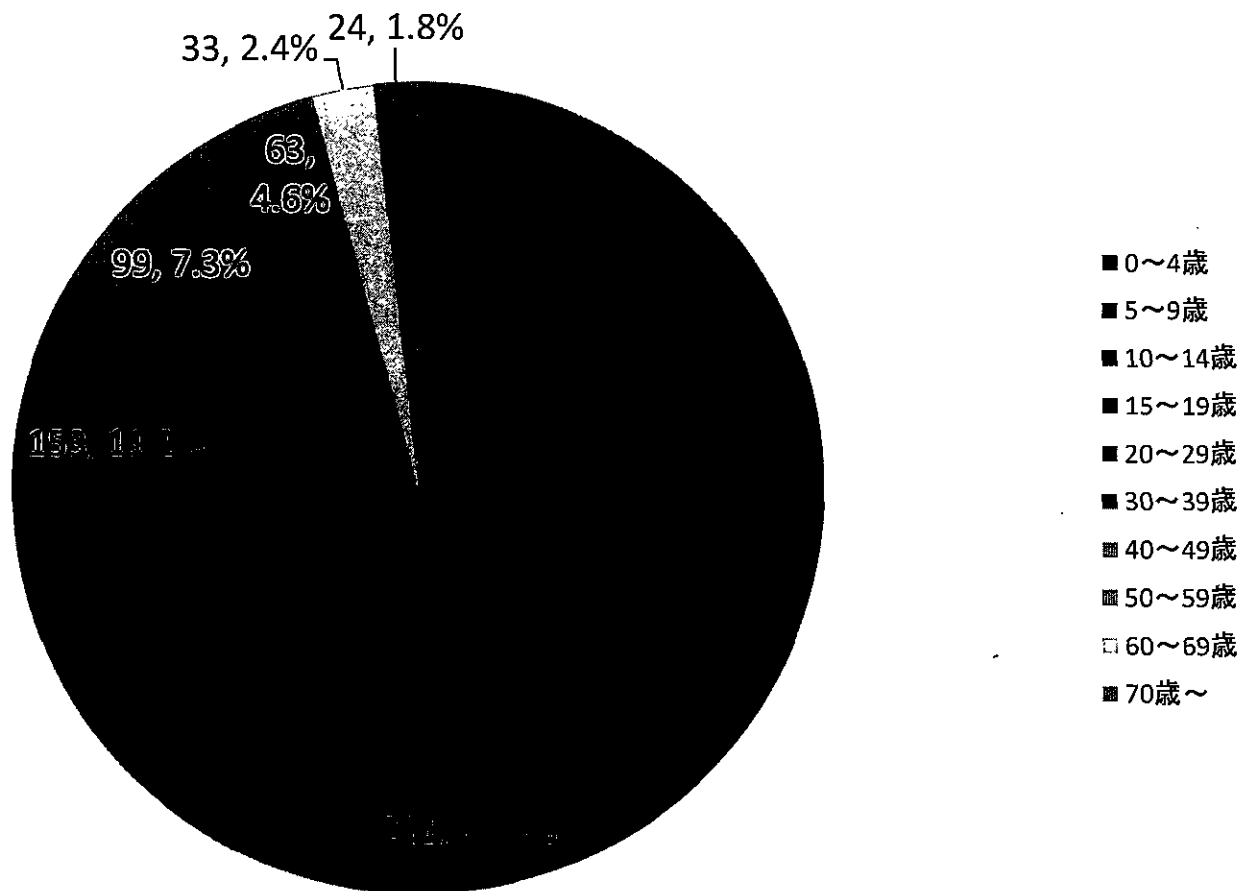


病原微生物検出情報：IASRより

インフルエンザ推計受診者数年齢群別割合

(2010年第36週～2011年第25週)

2010年第36週～2011年第25週インフルエンザ累積の推計受診患者数年齢群別割合



累積の推計受診患者数 = 1,380万人

**インフルエンザ様疾患による休校、学年閉鎖、学級閉鎖数
(厚生労働省結核感染症課調査)**

	休校数	学年閉鎖数	学級閉鎖数
2010/11シーズン (10/24-5/21)	862	7,628	23,395
2009/10シーズン (10/25-8/21)	7,012	29,281	85,169
2008/09シーズン (10/26-10/24)	6,010	15,115	44,485
2007/08シーズン (10/28-7/19)	377	2,015	4,428

2010/11シーズンの流行の特徴

シーズン初めはAH3N2亜型、その後はA (H1N1) pdmが中心となり、その後再びAH3N2亜型が出現し、最後はB型が中心となった

国内の流行開始 (定点あたり報告数1.0以上):

2009年第50週(12/13-12/19)

国内の流行のピーク:

2010年第4週(1/24-1/30)

定点あたり報告数31.88(累積報告数
157,381人)

その後、報告数減少。

抗インフルエンザ薬 耐性ウイルス分離状況

2010/11シーズンにおける抗インフルエンザ薬耐性株(A/H1N1pdm09)検出情報

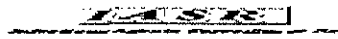
全国地方衛生研究所 国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター第一室

表2. 2010/2011シーズン 抗インフルエンザ薬耐性株(A/H1N1pdm09)検出情報

最終更新日: 2011/09/05

検出地域	報告機関	解析株数	耐性株数 (275Y)	耐性ヒストン株数 (275H/Y)
北海道・東北・関東	札幌医科大学	63	1	0
	青森県立中央大学	13	0	0
	岩手県立大学	25	0	0
	宮城県立大学	11	0	0
	秋田県立大学	11	0	0
	山形県立大学	11	0	0
	福島県立大学	11	0	0
	茨城県立大学	11	0	0
	栃木県立大学	11	0	0
	群馬県立大学	11	0	0
中部圏・北信越	新潟県立大学	11	0	0
	富山県立大学	11	0	0
	石川県立大学	11	0	0
	福井県立大学	11	0	0
	山梨県立大学	11	0	0
	長野県立大学	11	0	0
	岐阜県立大学	11	0	0
	静岡県立大学	11	0	0
	愛知県立大学	11	0	0
	岐阜県立大学	11	0	0
近畿圏	大阪府立大学	11	0	0
	京都府立大学	11	0	0
	兵庫県立大学	11	0	0
	奈良県立大学	11	0	0
	和歌山県立大学	11	0	0
	徳島県立大学	11	0	0
	香川県立大学	11	0	0
	愛媛県立大学	11	0	0
	高知県立大学	11	0	0
	福岡県立大学	11	0	0
中部圏・四国	愛媛県立大学	11	0	0
	高松市立大学	11	0	0
	香川県立大学	11	0	0
	徳島県立大学	11	0	0
	高松市立大学	11	0	0
	香川県立大学	11	0	0
	徳島県立大学	11	0	0
	高松市立大学	11	0	0
	香川県立大学	11	0	0
	徳島県立大学	11	0	0
九州	福岡県立大学	11	0	0
	熊本県立大学	11	0	0
	大分県立大学	11	0	0
	佐賀県立大学	11	0	0
	長門県立大学	11	0	0
	山口県立大学	11	0	0
	福岡県立大学	11	0	0
	熊本県立大学	11	0	0
	大分県立大学	11	0	0
	佐賀県立大学	11	0	0
全国	系統内解析株数 前対生株数(275Y+275H/Y) 前対生株数(275Y)	3,748 78 2.1%	3,748 78 2.1%	0 0 0%

2010/11シーズンには全日本では3,748株が解析され、耐性株78株(275Y 69株、275H/Y 9株)が検出された(耐性株検出率 2.1%)。耐性株78株のうち、タミフル耐性株が27例(35%)、ヒスタミン阻害剤耐性株が13例(17%)、ヒスタミン阻害剤耐性株が6例(8%)、タミフルおよびヒスタミン阻害剤の両方耐性株が3例(4%)、ヒンズー耐性株が1例(1%)、不明耐性株が9例(12%)であった。



地研がNA遺伝子解析によりアミノ酸変異(H275Y)をもつオセルタミビル耐性株を検出した結果
 解析数 3,748、耐性株数(275Y+275H/Y) 78、耐性株検出率 2.1%

病原微生物検出情報：IASRより

抗インフルエンザ薬耐性株(A/H1N1pdm09)検出情報より抜粋

全国地方衛生研究所 国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター第一室

- ・ **TaqMan RT-PCR法により、オセルタミビル耐性株に特徴的なH275Y耐性マーカ―検査を実施**
- ・ **オセルタミビル投与患者から分離されたH275Y耐性株はオセルタミビルおよびペラミビルに対して交叉耐性を示す**
- ・ **H275Y耐性株は、ザナミビルおよびラニナミビルに対して感受性を保持している**

<http://idsc.nih.gov/iasr/rapid/pr3732.html>より

2011/12シーズンのインフルエンザワクチン

2011/12北半球インフルエンザシーズンに推奨されるワクチン株

- A/California/7/2009 (H1N1) 類似株**
A/Perth/16/2009 (H3N2) 類似株
B/Brisbane/60/2008 類似株

今（2011/12）シーズンの
国内インフルエンザワクチン株

- ・ A/California/7/2009 (H1N1)
 - ・ A/Victoria/210/2009 (H3N2)
 - ・ B/Brisbane/60/2008
- （ビクトリア系統）

2010/11シーズンと同じ株です

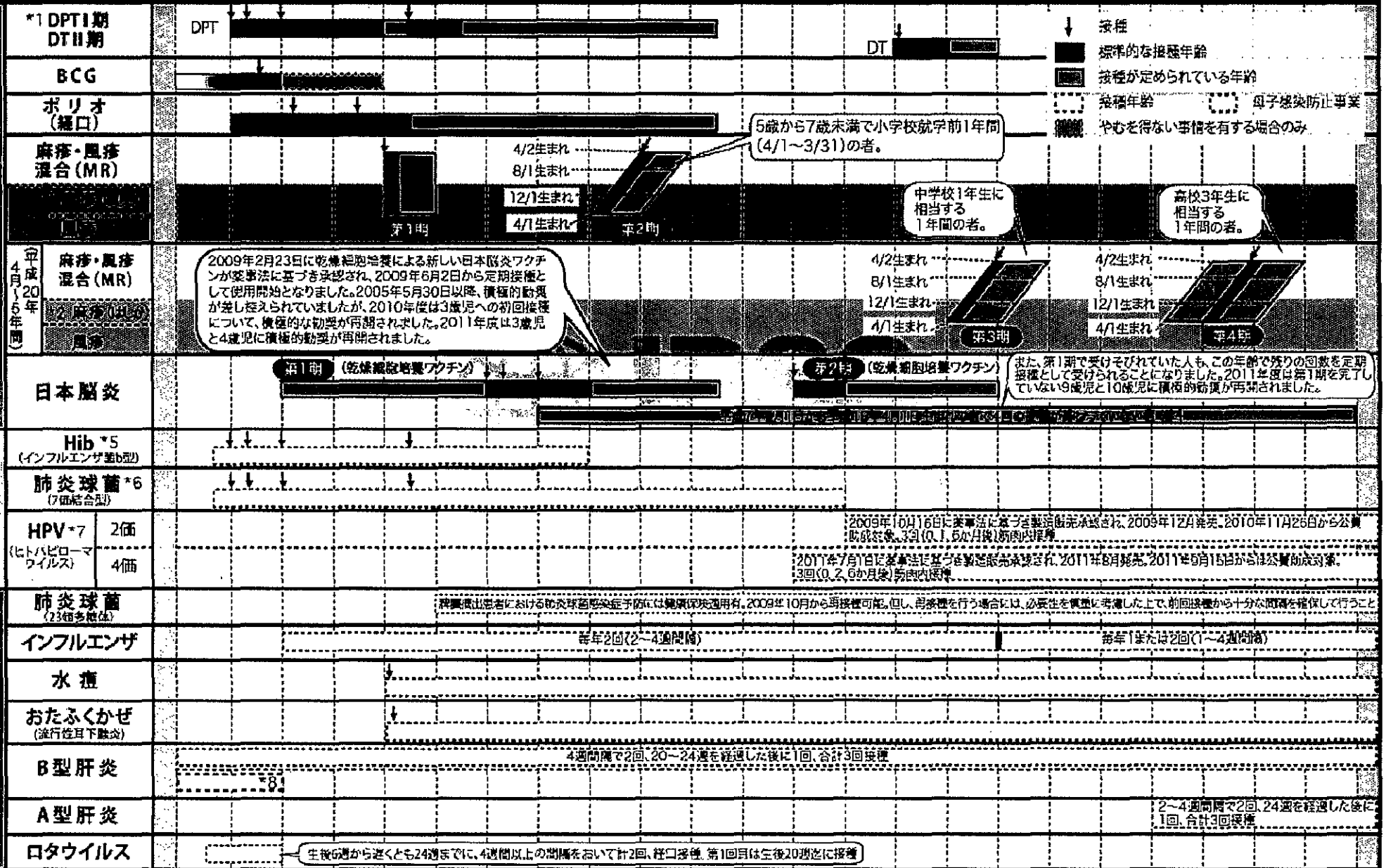
2010/11シーズンから小児の接種量が変わります！！

- ・ **今シーズンから小児の接種量・接種間隔が変更されます**
 - 3歳未満：1回0.25mLを2～4週の間隔をあけて2回接種
 - 3歳以上13歳未満：1回0.5mLを2～4週の間隔をあけて2回接種
- ・ **13歳以上は従来通りの接種量・接種間隔です**
 - 1回0.5mLを1～4週の間隔をあけて1回又は2回接種
 - 定期接種(二類疾病)として受ける65歳以上および60～64歳で定められた基礎疾患を有する者：1回0.5mLを1回接種
- ・ **接種間隔は4週間隔が望ましいとされています**

予防接種法

定期一類疾病予防接種

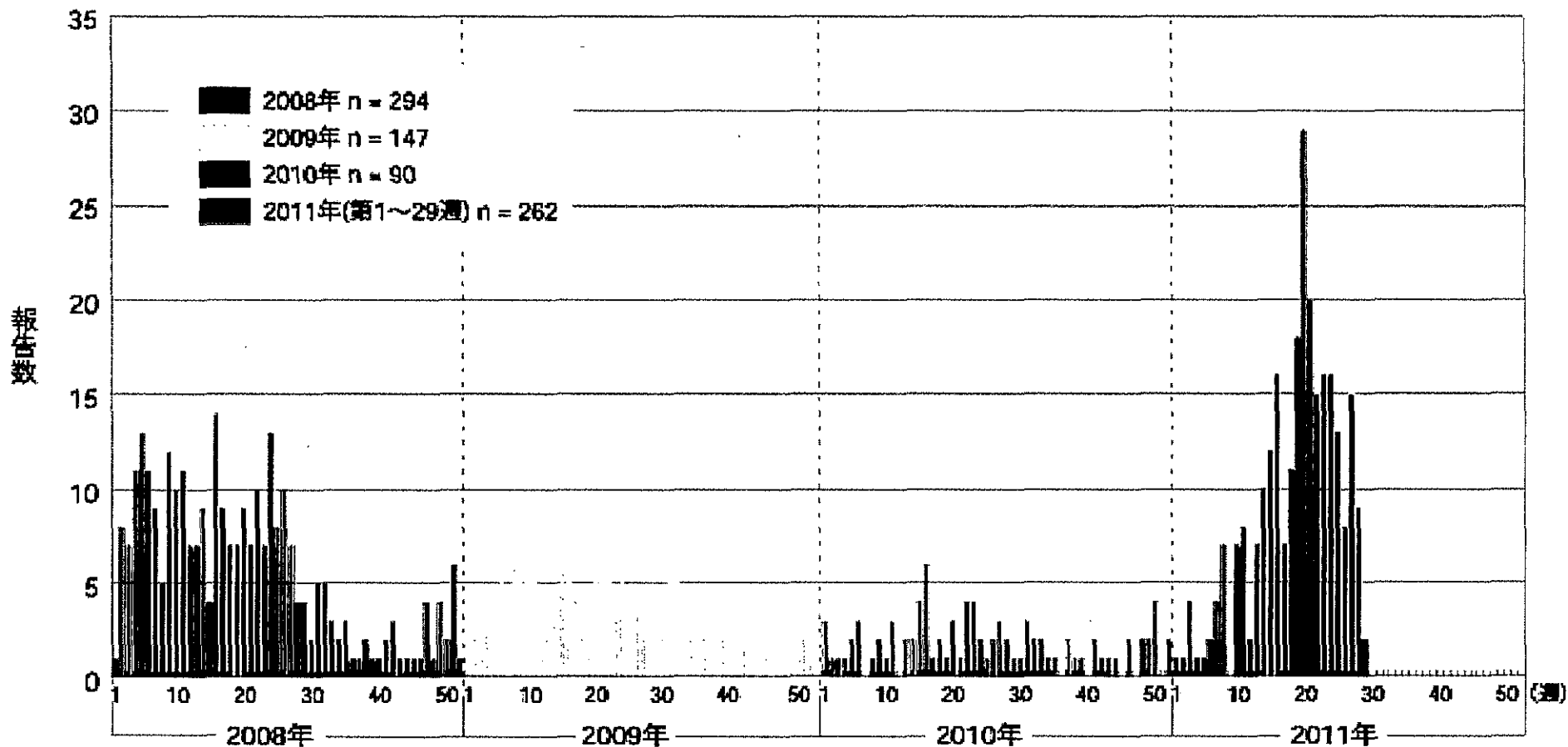
任意接種



*1:D:ジフテリア、P:百日咳、T:破傷風を表す。

※ 原則として、1歳未満の子(未接種)は、1回、1歳から2歳の子(未接種)は、2回、2歳から4歳の子(未接種)は、1回、4歳から6歳の子(未接種)は、1回、6歳から11歳の子(未接種)は、1回、11歳から12歳の子(未接種)は、1回、合計3回接種。

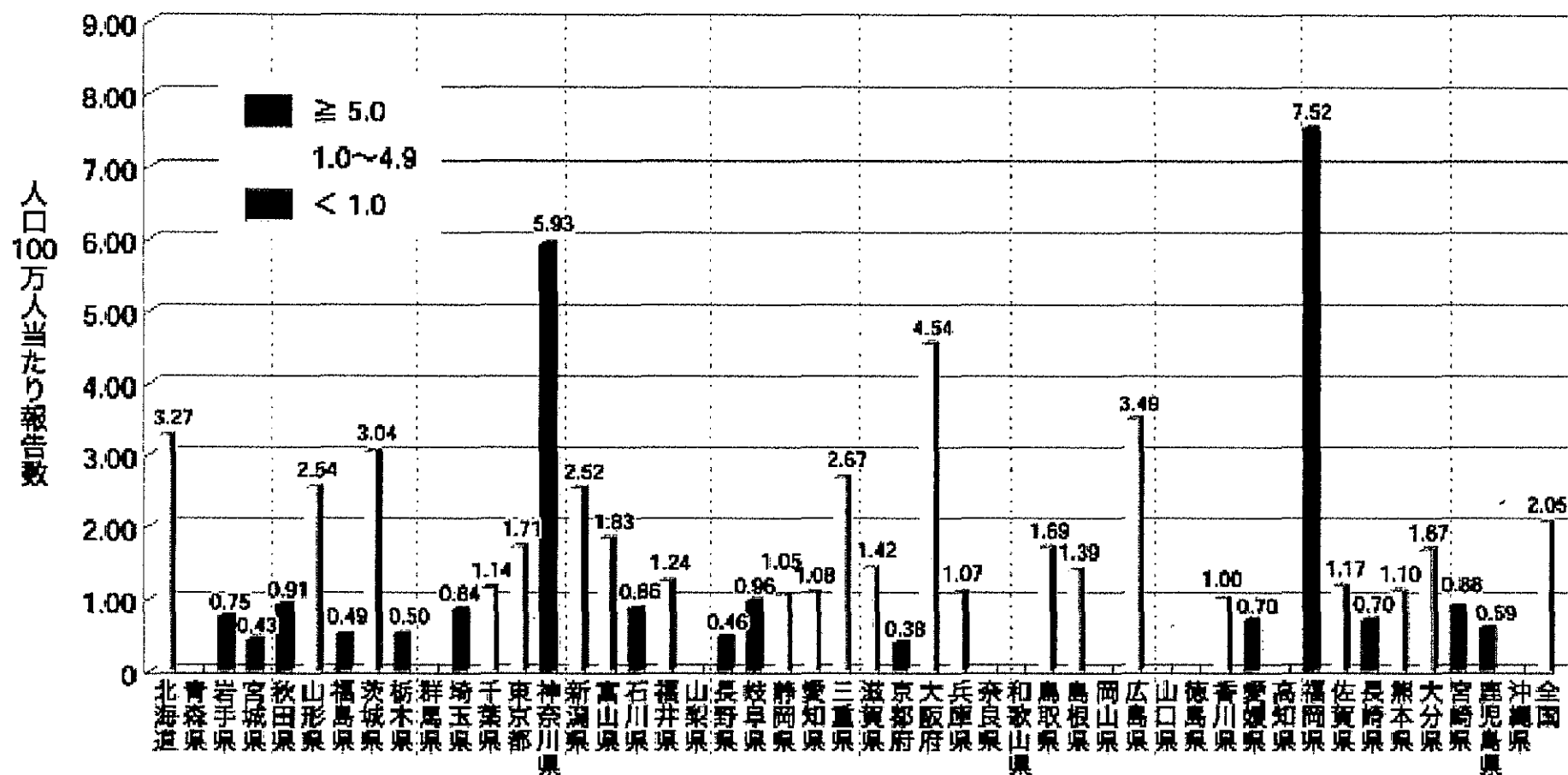
図1. 風しんの年別・週別報告数(2008～2011年第29週)



感染症週報より

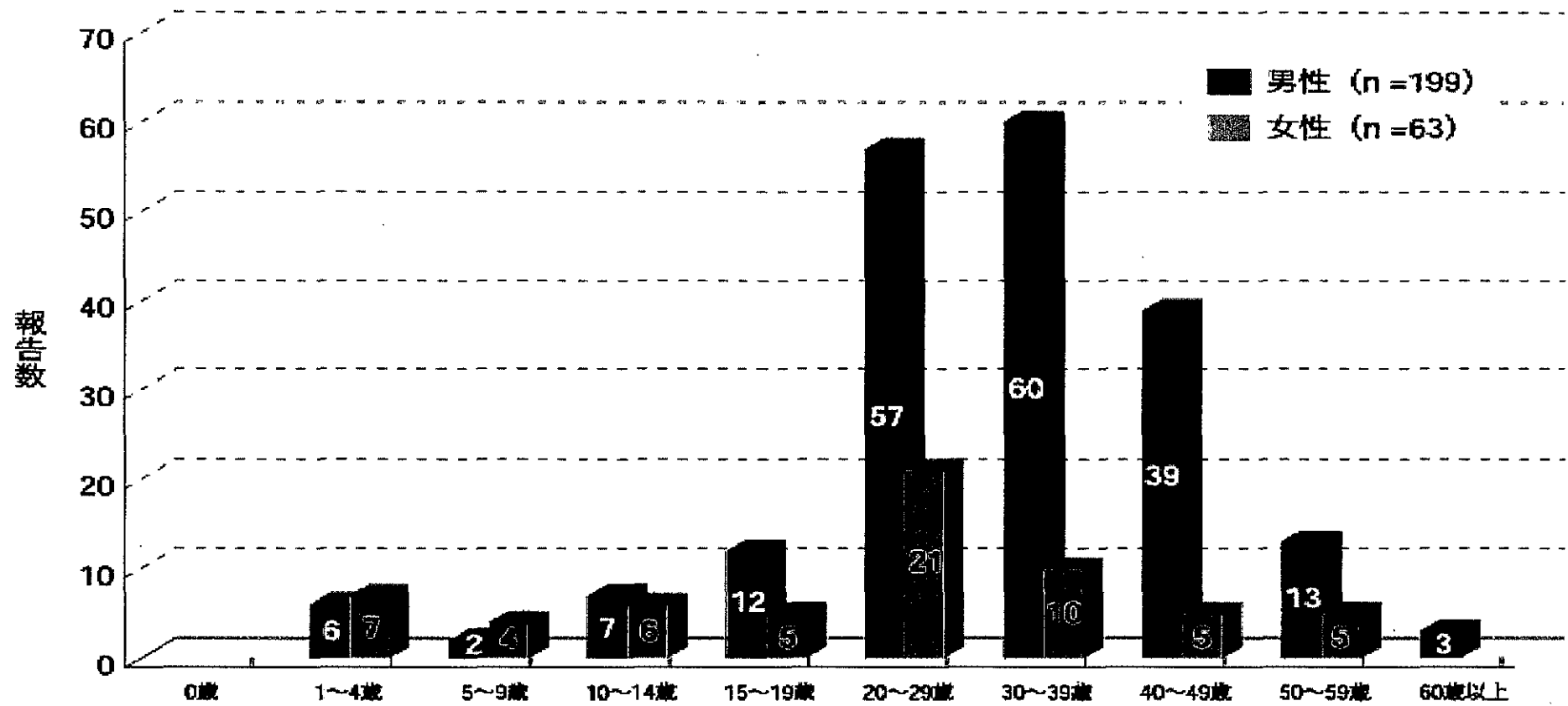
風疹、昨年同期の約4.5倍！！

図3. 風しんの都道府県別人口100万人当たり報告数(2011年第1~29週)



感染症週報より

図4. 風しんの性別・年齢群別累積報告数(2011年第1~29週)



感染症週報より

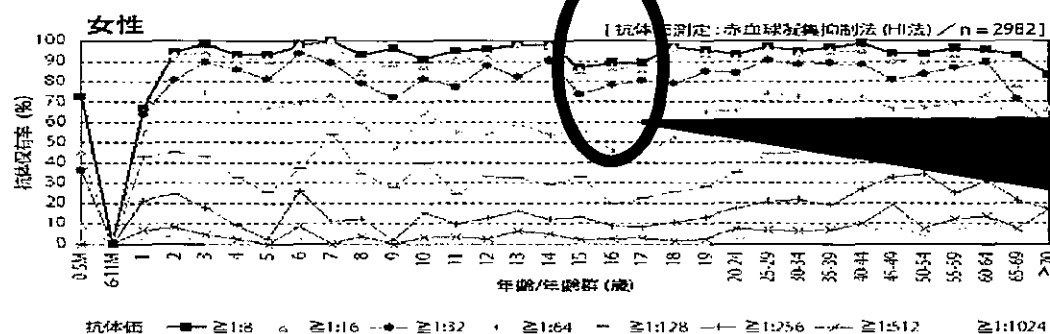
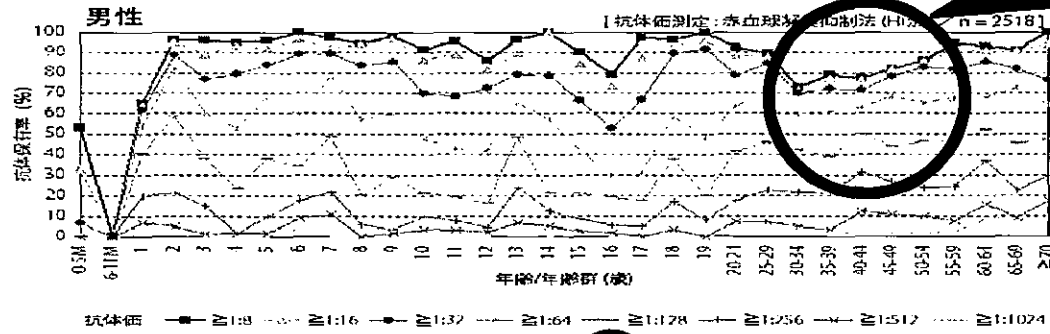
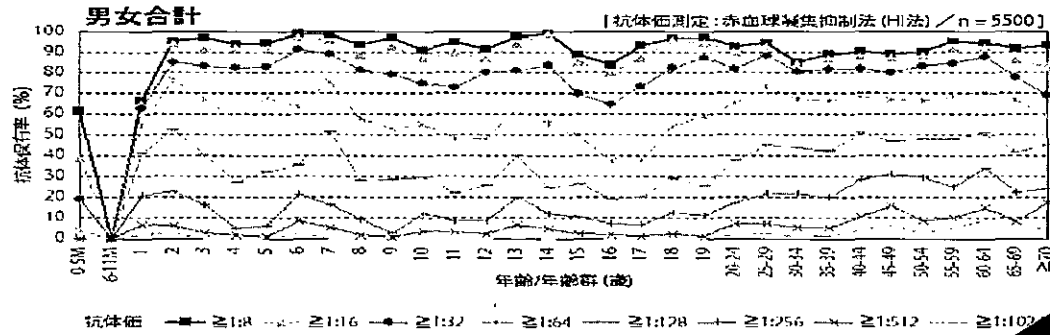
男性が女性の約3倍

男女

男性

女性

年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況, 2010年^{※1}
～2010年度感染症流行予測調査より～



特に
30代-50代
前半の男性
の抗体
保有率低い

2010年に
15-17歳
の女性
10人に1人
抗体陰性

※1 主に2010年7～9月に採取された血清の測定結果(2011年3月現在暫定値)

【2010年度風疹感受性調査実施都道府県】

宮城県、山形県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、新潟県、長野県、愛知県、三重県、京都府、山口県、高知県、福岡県、沖縄県

感染症流行予測調査より

今年は風疹も要注意！

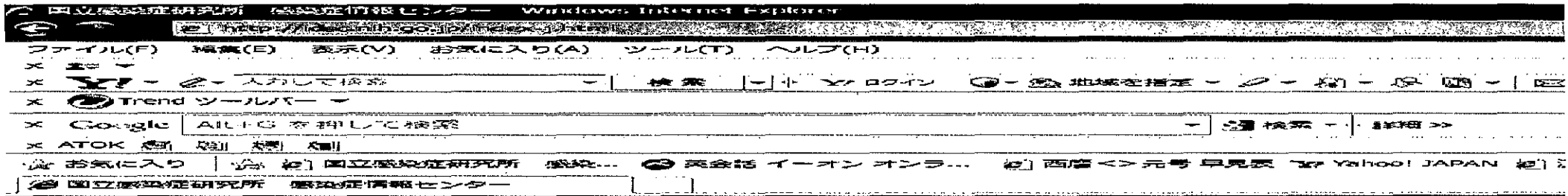



**第1, 2, 3, 4期の定期接種対象者は
麻疹風疹混合ワクチンの接種を
お忘れなく！！**

**風疹ワクチン未接種で
風疹未罹患の方はワクチンを！**

国立感染症研究所 感染症情報センターのHP

http://idsc.nih.go.jp/index-j.html





国立感染症研究所 感染症情報センター

[English](#)

最新情報

- 9月16日 感染症流行予測調査
7月の日本脳炎抗体保有状況調査(速報第11報)
- 9月16日 感染症発生動向調査週報[IDWR]
第35号(平成23年8月29日~9月4日)
- 9月14日 麻疹「疾患別情報」
麻疹の再感染に向けた積極的疫学調査ガイドライン 第三版
- 9月14日 病原体情報 [IASR]
インフルエンザウイルス分離・検出速報2010/11シーズン
- 9月13日 病原体情報 [IASR]
生後9カ月以内の乳児における不明熱等患者からのパレ
コウイルス3型の検出ー山口県
- 9月13日 腸管出血性大腸菌感染症「疾患別情報」
腸管出血性大腸菌感染症発生状況(速報) 第35週
- 9月13日 麻疹「疾患別情報」
麻疹発生状況(速報グラフ) 2011年第35週

[更新履歴](#)

お知らせ

- 要日本大震災関連
- 麻疹
- 風疹
- 腸管出血性大腸菌感染症
- インフルエンザ
- 鳥インフルエンザ
- 百日咳
- 日本脳炎
- 予防接種情報

感染症発生動向調査
一層出について

H5N1(鳥インフルエンザ)
感染症 全数調査のお願い

H5N1(鳥インフルエンザ)
詳しくはこちら

疾患別情報

感染症情報センターのHPでとりあげた疾患、および予
防接種についてメニュー別と索引を添えています。 [詳細へ](#)

サーベイランス

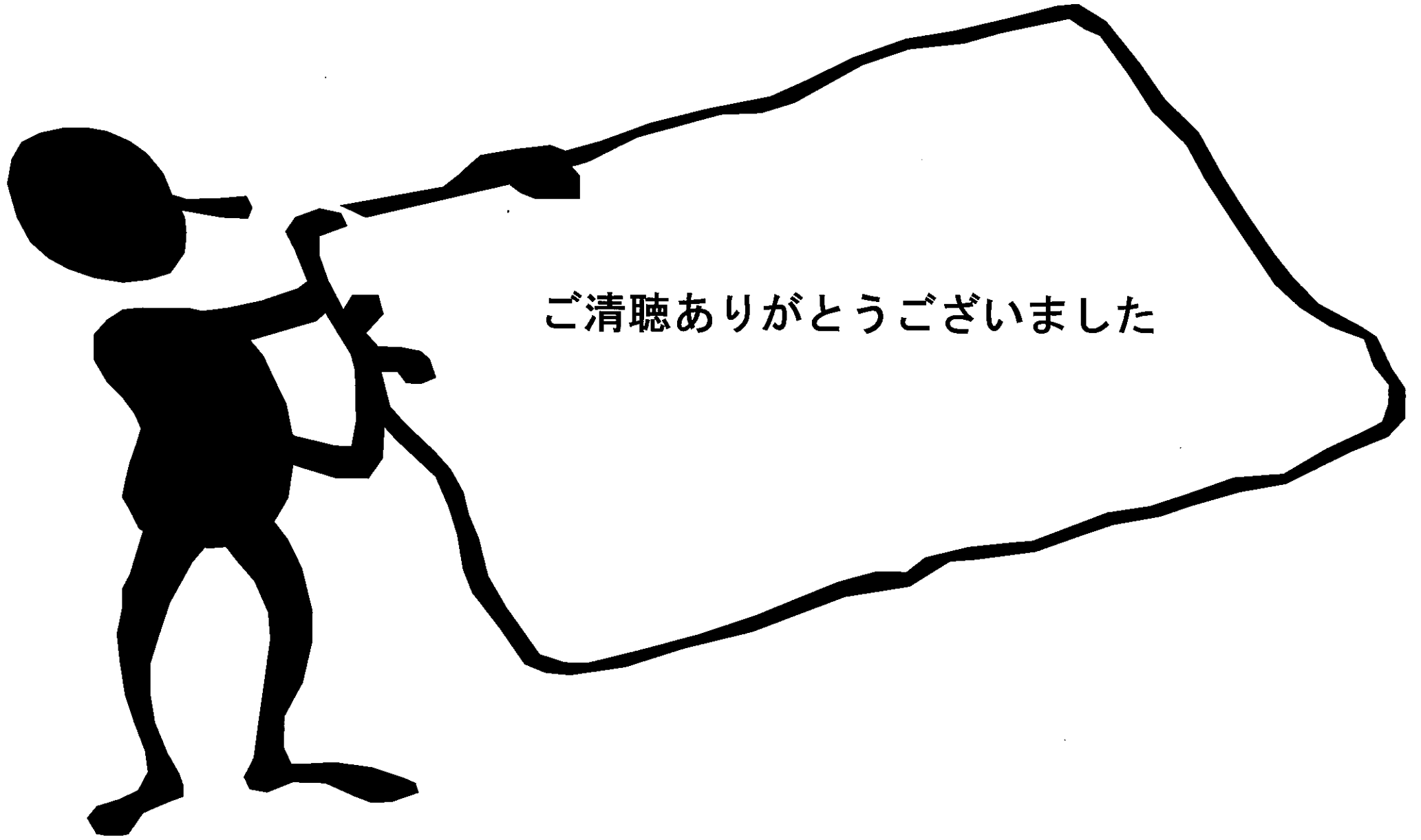
感染症発生動向調査 週報(IDWR)	感染症流行予測調査
病原体微生物検出情報(IASR)	院内感染対策サーベイランス (JANIS)

各種情報

FETP-V 実地疫学専門家養成コース	全国衛生研究所一覧
研修	全国保健所一覧
異種移植と感染症	EpiInfo
食品媒介疾患アウトブレイク対応 ガイドライン	

関連リンク

- 厚生労働省
- 検疫所 海外感染症情報
- 地方衛生研究所ネットワーク
- (財)結核予防会結核研究所



ご清聴ありがとうございました